

## 令和4年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

#### (1) 国・県・市の学力調査などから

- ・国語では個人差はあるものの、どの領域も正答率が高く学習内容がほぼ身に付いているといえる。「書くこと」に関しては、6年生においては市の平均正答率を上回ったものの4・5年生においては県や市の平均を下回るなど課題が残る。指定された条件や構成で文を書く力が不十分である。今後重点的に定着を図っていく必要がある。
- ・算数では、市の結果と同程度、または上回っており、学習内容がほぼ身に付いていると言える。正答率は概ね高いが個人差が見られる。
- ・社会では、市の平均と同程度であり、概ね学習内容が定着していると言える。
- ・理科では、すべての領域で市の平均を上回っていることから、学習内容が定着しているといえる。発展的な問題については、市の平均正答率を超えているものの40%以下の正答率という問題もあるため、身近な事象と学習内容を結び付ける学習に力を入れていく必要がある。

#### (2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「勉強が好きですか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、学年によって差が見られるが、低学年で79%以上、中学年で80%以上、高学年で70%以上とほとんどの学年で市の平均を上回るなど、望ましい傾向と言える。また「学校の授業が分かるか」という質問に対する肯定的な回答の割合はすべての学年で市の平均を上回った。
- ・授業への取り組み（望ましい学習習慣）については、学習や気持ちや態度についての肯定割合が高く、学習への意識の高まりが感じられる。また、「グループなどでの話し合いに自分から参加している」「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定割合は、ほとんどの学年で市の平均を上回っている。
- ・家庭学習への取組については、下学年ではほぼ100%の肯定的回答であるのに対し上学年では、85～90%と肯定的回答の割合が小さくなっている。

#### (3) 授業等への取組状況から

- ・全体的に学習のきまりや進め方が身に付き、意欲的に課題に取り組んでいる。また、ペアやグループなどでの学び合いを取り入れた学習を意識して行った結果、自分の考えを広めたり深めたりできるようになり、学習の楽しさを感じている児童が多い。
- ・自分の考えを表現する力は付いてきており、いろいろな方法を取り入れて伝える力は、高まってきている。しかし、対立する意見の言い方・聞き方、疑問の投げかけ方など対話的な学び、深い学びの実現に向けた力については個人差が大きい。
- ・調べたことをパソコンを使ってまとめたり、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えたりするなど、ICTを活用する力が着実に身に付いてきている。
- ・地域の教育力を生かした教育活動の展開では、八幡山を活用した学校行事、教科の学習を行い児童も、八幡山に親しみを持っている。一方、感染症拡大防止の観点から、昭和小インターンシップ、音楽集会、中学生との交流（運動会・音楽集会への参加）など、行うことができなかった。

## 2 今年度の重点目標

- ・児童自ら考え分かりやすく表現できるようにするための授業の進め方の工夫
- ・基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施と家庭学習の習慣化
- ・夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進
- ・よりよい授業を目指した学力調査等の結果を分析・活用した授業改善

## 3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

### (1) 授業づくり及び教師の指導・支援の工夫（通年）

- ★□○単元（題材）の目標を十分に分析した上で、本時レベルで期待したい児童の具体的な姿を想定してねらいの焦点化を図り、本時のゴールを意識した課題の設定・提示の工夫をする。
- ★□○学びに向かう力や協働して課題に取り組む態度を身に付けられるように「ペア」「小グループ」「全体」など、児童の実態やねらいに応じて学習形態を工夫し、児童同士で情報交換をしたり教え合ったりしながら、互いに認め合い、共に伸びられるようにする。また、ICT機器を効果的に活用するとともに、児童が自ら分かりやすく表現できる学習活動を重視する。
- ★□○日々の授業において、認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫したりICT機器を活用したりして、児童が自他のよさへの認識を深め、自信をもって学習に取り組めるようにする。

### (2) 各教科における基礎・基本の確実な定着（通年）

- ★基礎・基本の定着のためのじっくりタイムの実施や、学力アップ月間を通して復習する機会を設け、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ★基礎・基本を確実に定着させるため、AI型ドリルやパワーアップシートなども活用し基礎的な学習内容の復習を行う。
- ★4～6学年全学級の算数科において少人数・習熟度別学習・TTを導入する。児童の実態や単元のねらい、学習効果等を考慮して形態を工夫し、かがやきルームとも連携して計画的に学習を進める。
- ★○継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。
- 家庭での自主学習を奨励する。学年の実態に応じた指導・支援を行い、自分に必要な学習について、自分で計画を立て、主体的に家庭学習が進められるようにする。また、参考になるノートを掲示するなどして、内容の高まりが見られるような工夫をする。
- ★□○学校全体の学力アップ月間を年2回設け、計算力や漢字力アップなどのポイントを絞って基礎学力アップを図る。また、家庭学習の記録を活用して、家庭学習の充実を呼びかける。

### (3) 夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進

- ★□地域や公共機関との連携により、生活科・総合的な学習の時間など、地域の施設を利用した学習を展開する。（八幡山、地域の商店や事業所、公共施設など）
- ・幼稚園（生活科）や中学校（音楽集会・運動会・あいさつ運動・宮っ子チャレンジウィークの受け入れ・中学校見学など）との連携を通して、将来への希望と協働する力を育む児童を育成する。

(4) 確かな学力をはぐくむための指導力向上と授業改善

★□授業研究会や授業を相互に見合う機会を設け、それぞれの授業づくりのポイントやこつを情報共有したり、児童の学びの事実を見取り、それに基づいた授業研究を通して教師間で学び合ったりすることで、授業力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践に努める。

★□○各種学力調査の結果を職員研修の中で分析・活用し、学習に係る課題等を明らかにした上で共通理解を図り、学力向上に向けた実効性の高い取組の共通実践に努める。

○各教科の学びや文章での振り返り等を書く場面で、指定された条件や構成で文を書く学習を意識的に取り入れる。

□校内研修やICT支援員の活用により、教師の基礎的な情報活用能力の向上を目指す。

○GIGA スクール構想のもと、児童がコンピュータや情報ネットワークなどのICT環境に親しみ、協働学習ツールやAI型ドリルを積極的に活用した学習活動を展開する。

・現代的な諸問題に対応していくための資質・能力を、教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図るカリキュラム・マネジメントを通して育成する。